広報

にしわが

第16号

平成19年

2月号

今月の内容

小学校適正配置アンケート結果 …2～7P
故・久保喜代理さん旭日単光章受章…8P
地区担当職員のお知らせ……9P
雪合戦湯田中学生優勝 ……11P
各種大会結果……14P～15P
みんなのひろば ……17P

写真■2月18日・川舟小学校区学区民雪祭りの「21世紀も走れ」で
ゴールを目指す川舟小3年生の石川菜銘（かんな）さん（右）と亜葵（あき）さん
（関連13P）

小学校適正配置アンケート結果

62%が統廃合に賛成

町では、子どもたちの健やかな成長と、より良い充実した教育を保障し将来的な展望にたった小学校のあり方を検討するため「小学校適正配置検討委員会（高橋成会長・川尻）」を設置して検討を始めています（5ページに委員の名簿）。さきごろ全世帯を対象に小学校適正配置（学校の存続、統廃合）のアンケートを行いました。アンケートは昨年11月に区長を通じて町内2435世帯に配布し、1918世帯から提出がありました。回収率は78・8%でした。

国民の3大義務

日本国憲法により日本国民には3つの義務があります。税金を納める納税の義務、働く義務の勤労の義務、そして教育を受ける義務です。

教育を受ける根拠と義務

日本国憲法の26条では「すべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する」とし第2項で「すべて国民は、法律の定めるところにより、その保護する子女に普通教育を受けさせる義務を負ふ。義務教育は、これを無償とする」と示され、小学校から中学校までの期間は、保護者が児童や生徒に対し教育を受けさせることが義務とされています。

学校教育法の第29条では「市町村は、その区域内にある学齢児童を就学させるに必要な小学校を設置しなければならない」とし、それぞれの市町村が小中学校を設置し管理運営する立場になっています。

なお、小学校には設置者により、国が設置する国立小学校、市町村立の公立小学校、私立小学校があります。

平成18年5月現在で県内には国立小学校が1校、公立小学校が435校、私立小学校が1校あります。

全国的な統廃合の流れ

岩手県教育委員会の県内公立小学校統廃合の状況の

【表1】　町内小学校の児童数の変化の推移　（H18年9月学務課調べ）

	昭和40年	昭和50年	昭和60年	平成10年	平成18年
川尻小	368人	264人	122人	99人	56人
鷲合森小（S47に統合）	87人				
湯川小（S46に統合）	182人				
草井沢小（S47に統合）	101人				
鷲之巣分校（S45に統合）	13人				
湯本小	294人	166人	127人	103人	59人
赤石分校（S47に統合）	6人				
左草小（H13に統合）	53人	31人	15人	15人	
下前分校（H13に統合）	35人	5人	6人	8人	
越中畑小	107人	32人	45人	18人	19人
柳沢分校（S58に統合）	30人	13人			
沢内一小	376人	202人	160人	99人	81人
新町小（S37に統合）					
太田小（S37に統合）					
猿橋小	171人	82人	76人	67人	32人
長瀬野小（S46に統合）	70人				
川舟小	140人	126人	59人	59人	33人
若畑小（S44に統合）	56人				
貝沢小	79人	51人	34人	34人	20人
湯田地区合計	1,276人	511人	315人	243人	134人
沢内地区合計	892人	461人	329人	259人	166人
西和賀町全体	**2,168人**	**972人**	**644人**	**502人**	**300人**

※越中畑小学校柳沢分校は昭和58年に川尻小学校に統合されました。

資料によると平成16年度で5市町で17校、平成17年度末で5市町で12校が廃止になりました。

一方、新設された小学校は平成17年度で3校、平成18年度で2校と、圧倒的に統廃合されている小学校が多いのが現状です。

また、平成18年度学校基本調査結果では全国の公立小学校は前年と比べて249校も減少しています。また、同調査の小学生の児童数の推移をみても、昭和56年（1192万5000人）を境に年々減少し続け平成18年は過去最低の718万7000人という結果でした。

統廃合の背景にあるもの

統廃合の一般的な理由にはいくつか挙げられますが、児童の減少が大きな理由です。また、交通網の充実で大きなエリアに対応できるようになったこと。校舎の老朽化に伴って統廃合する場合、あるいはより充実した教育環境を目指し統廃合して新設する場合などいくつかの事例があります。

前述のとおり小中学校の設置と管理は市町村が行うことになっているため、学校の統廃合は財政的な側面から論じられることも少なくありません。しかし、小規模校ではどうしてもできない教育上の諸問題もあり、教育効果を上げるためには児童数と学校の規模を考え適正配置をする必要があると言われています。（表2）

児童数は激減

昭和37年には町内に19あった小学校（分校も1と数える）は現在7校まで減りました。児童の数も昭和40年と平成18年を比べると大幅に減少していることがわかります。（表1）

昭和40年には2168人いた児童も、平成18年には、およそ7分の1の300人になりました。

湯田町では鉱山の閉山や湯田ダム建設による人口減少で、そして沢内村では校舎の老朽化が大きな理由として統廃合が行われてきました。

学級数と先生の数

国では、公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律の第3条で学級編成の標準を示しています。標準では1学級の児童数は40人と定めています。また、隣り合う2つの学年を足しても16人にならない場合は複式学級になります。

ただし、これは国の基準であって、都道府県の教育委員会が、児童や生徒の実態を考慮して特に必要があると認めた場合は、独自の基準で定めることができるとされています。岩手県では特例を認めていないので、国基準と同じ1学級40人です。

また、同法の第6条などで小中学校の教職員の定数の標準値が示されています。これにより学級数などに応じて、校長、教頭、教職員、養護教諭、事務職員の数などが調整されます。

【表2】

小規模校の良さと問題点

	学　習　面	学 校 行 事
良さ	・一人一人に目が行き届き、きめ細やかな指導ができる。 ・教職員と児童のふれあいが深まる ・学級の係などリーダーを経験するチャンスが多くなる ・発表の機会が多く、個別指導に徹することができる ・異学年交流が行え特色ある学習ができる	・活動できる場面が多く、それに応じて身につく力も期待できる ・協力心や役割を果たそうとする責任感が育つ ・子どもたち一人一人の行動をおさえやすく安全面での配慮がしやすい
問題点	・集団が固定化してしまい、磨きあったりよい意味での競争意識が乏しくなる ・さまざまな考え方や見方を引き出すことが困難で、話し合いの場面では練り上げができないことが多い ・ほかの児童を説得したり、ほかの児童の意見を聞いたりしながら自分の考えをつくり上げるなどのコミュニケーション能力、伝え合う能力の育成が難しい	・係活動、演目など個人の負担が多くなる ・団体競技などで人数を必要とする演目ができない ・競技によっては順位が固定化し、意識的に取り組めない可能性がある ・友だち同士お互いに人間関係の学習が広がりにくい ・クラブなど活動場面を複数つくって、子どもたちの希望によって選ばせることができない

町内の学校は3学級から6学級の学校ばかりですので、この学級数であれば各学級に1人の担任教諭と教頭が1人、養護教諭が1人、事務職員が1人配置されます。

仮に2学級以下になった場合には教頭が配置されなくなります。

沢内一小以外は複式

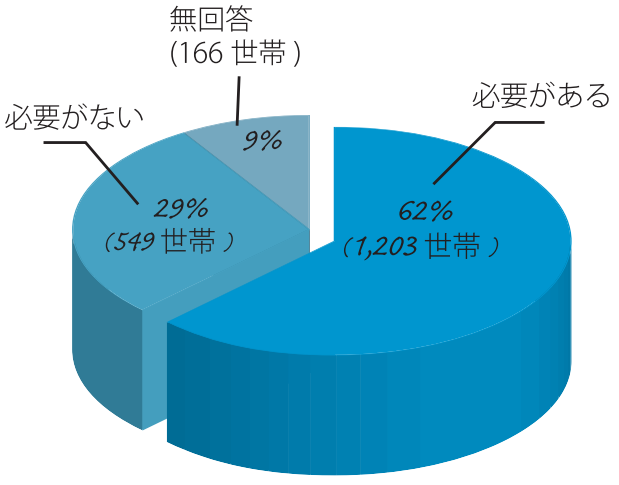
岩手県教育委員会によると岩手県内の小学校のうち「複式学級」がある学校数は155校で全体の34・8%になります（平成17年5月1日現在）。西和賀町では、平成18年5月現在で7校中、沢内一小をのぞくすべての学校に複式学級があります。

学校教育法施行規則の第17条では標準の学級数として「小学校の学級数は、12学級以上18学級以下を標準とする」とあり、この基準を下回るすべての学校が小規模校に該当します。

小規模校には小規模校の良さと問題があると言われています。（3ページの表

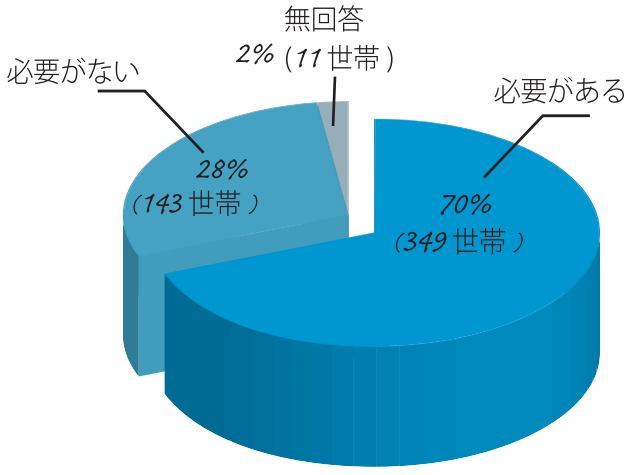
グラフ1

問　統廃合の必要があるかどうか



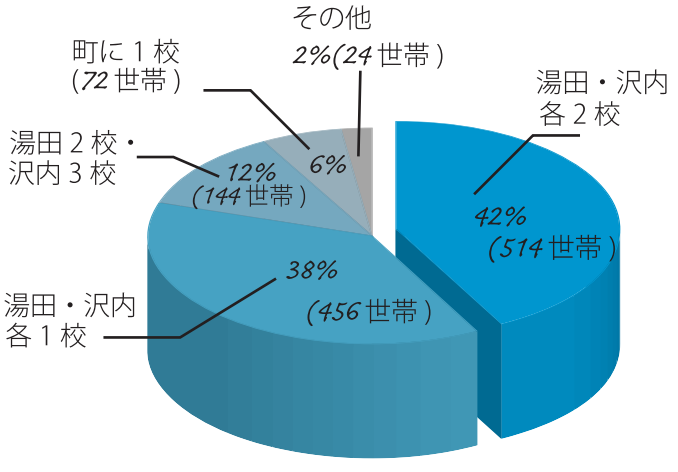
グラフ2

問　統廃合の必要があるかどうか（子どもがいる世帯）



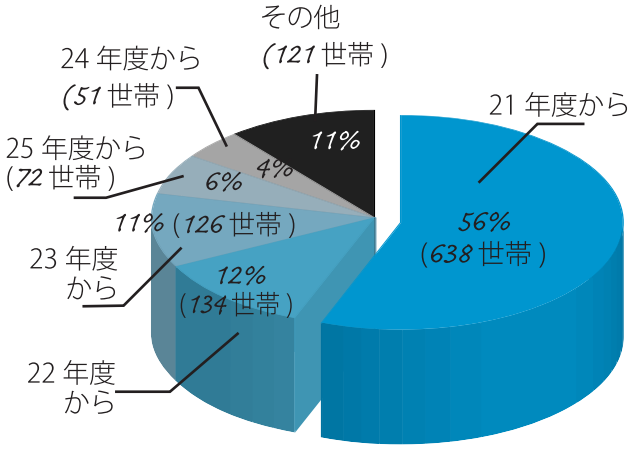
グラフ3

問　統廃合する場合の学校の数



グラフ4

問　統廃合する時期



【注】
・「統廃合の必要があるか、ないかについて」は全町と子供がいる世帯の集計です。
・「統廃合する場合の学校数について」と「統廃合する場合、時期はいつがよいかについて」 は全町の集計です。
・「子供がいる世帯」の集計結果は、「子供がいる」、「いない」に記入があった世帯のみの集計です。そのため、全町集計とそれぞれの数値が合致しない場合がありますのでご了承ください。

2）児童一人一人に対応した指導をうけられる反面、お互いに磨きあう意識が少なくなるなどとも言われています。それは、学習面や学校行事などに表れます。

アンケート結果から

「統合の必要あり」62％

「統廃合の必要があるか、ないかについて」の問には、62％が統合の必要があると回答し、子どものいる家庭の70％が統合の必要があると回答しています。（グラフの1と2）

意見の中には、統合はさけたいが子どもたちのことを考えると統廃合はやむを得ない、あるいはスクールバスの問題などの諸条件が整えば統合に賛成するなど条件付きで賛成との意見もありました。また、統合に反対の意見では、地区の衰退や少人数での教育の良さを指摘する意見が多く見受けられました。

「学校数は4校」42％

また「統廃合する場合の学校数について」の問には湯田・沢内で2校ずつが42％、湯田・沢内で各1校ずつが38％と差はわずかでした。（グラフ3）

意見の中には、児童の通学距離を考えて湯田・沢内に2校ずつと回答した人が多く、中学校の数にあわせて湯田・沢内1校ずつと回答した方が多く見受けられました。

「21年度から」56％

「統合するとした場合、時期はいつが良いと思いますか」の問には21年度からが56％、22年度が12％と、早い段階での統合を望む声がありました。（グラフ4）

意見の中には、一刻も早く統合するべきという意見に対し、時間をかけて年度にこだわらないとする指摘もありました。

その他の意見や提言

学校の統廃合をする以前に、人口増や若者定住の施策を優先するべきとする意見や行政の無駄を指摘する意見などがありました。またアンケートを記入するための資料が不足しているとの指摘やアンケートそのものに問題があるとの意見。あるいは、いじめ問題の対応や統廃合後の校舎の有効活用の指摘などがあったほか、高校までも含めた一環教育をするべきとの提言がありました。

来年3月までに最終答申

検討委員会では、7月をめどに一定の方向性を導き、それをもとに各地区で懇談会を行い、最終的には来年の3月までに最終答申を行う予定です。

1月18日の第2回検討会

ホームページでも公開

今回広報で取り上げた結果のほかに、ホームページには地区ごとの集計結果を公表していますのでご覧ください。

http://www.town.nishiwaga.lg.jp/

小学校適正配置検討委員会委員

（H19年1月現在）

役職	氏名	所属など
会長	高橋　成	区長協議会副会長
副会長	石井　弘光	川舟郵便局長
委員	石川　洋斗	川舟小 PTA 会長
	宇都宮清美	湯本小 PTA 会長
	小田島三夫	元教員
	神成　礼子	湯田地区保育園代表
	佐々木浩輔	沢内中 PTA 会長
	佐々木須保子	西和賀町校長会会長
	佐藤　政信	区長協議会会長
	佐藤りき子	沢内地区保育所代表
	高橋　茂之	一般公募（寅沢）
	高橋　淳木	越中畑小 PTA 会長
	高橋清一郎	湯田中 PTA 会長
	高橋　辰彦	湯本保育園保護者会
	高橋　宏	一般公募（猿橋）
	田中　勲	貝沢小 PTA 会長
	田中　光広	川舟保育所保護者会
	照井　盛丈	川尻小 PTA 副会長
	新田　俊浩	猿橋小 PTA 会長
	米澤　昭蔵	沢内一小 PTA 会長

貝沢小学校区

賛 母校がなくなるのは忍びないが、集団生活の中の人間形成などのために必要性がある。あとは、人件費削減分、目に見えるだけの教育充実と住民のために使ってほしい。

反 地域に小学校がなくなることは大変なこと。どんどん地域が衰退する。だから、このままで良いと思います。

そ 最初に合併ありきでの議論では意味がない。地域にとって学校は活性化の核であり子どもの存在が将来に向けての希望である。

アンケートの意見欄から、統廃合に対して各小学校区から賛成、反対の立場の意見を一つずつ、その他の意見や提言などを一つずつ掲載しています。

賛は統廃合に賛成、**反**は統廃合に反対、**そ**はこれ以外の意見です。意見の抽出にあたっては具体的な学校名がでていない意見、理由が付されかつほかの学校区となるべく重ならない意見を掲載基準としました。

なお、本ページは教育委員会の資料をもとに広報編集委員会で意味が変わらない範囲で再編集しています。それぞれの意見が地区の意見を代表するものではありませんので、あくまでも参考意見のひとつとしてください。

こんな意見・こんな提言

猿橋小学校区

賛 子どものために少人数より、多くの子どもたちの中で勉強させたい。

反 町の経費節約でやるのは反対です。とにかく、時間をたっぷりかけて現在在学中の父母も含め話しを聞くことが大切だと思います。

そ あまり急がず十分な議論、住民の合意が必要。始めに統合ありきではなく、現状の分析と将来あるべき姿を十分に見通してほしい。

川舟小学校区

賛 総論賛成、各論反対がほとんどの意見と思うが、子どもを中心に考えれば統合は必要だ。

反 地域の行事などは小学校がある事によって意味のある地区活動が行われているのが現状です。どんなに児童数が少なくなろうとも湯田、沢内の小学校は今のままで良いと思います。

そ 現実的には適正配置を考えなければならないが、子どもが増える地域づくりを真剣に考えていくことも重要だ。

湯本小学校区

賛 明らかに子どもたちの数が少ないので、各1校ずつで十分です。中学校だって各１校でやってきているんだから。子どもたちだって人数が多い方が楽しいんじゃないですか。

反 学区のエリアが大きすぎるので、現状維持が良いと考える。特に小学校低学年の負担が大きい。

そ はたして適正は何を基準において適正というのかわかりませんが、行革の一環として当然取り組まなければならないテーマですので、関係者の熱心な討議を期待します。

沢内一小学校区

賛 早急に統合してほしい。現状でも１クラスの児童数が少なすぎると感じています。学校がなくるのはさびしいかもしれませんが、それは大人たちの意見。子どのために1校に統合してください。

反 少人数の方が一人一人に目が行き届き、集中力があるような気がします。

そ すべてを中央に集めることも疑問です。人口の少ないところがなくても良いといわんばかりで気に入りません。同じ日本人なら公平な政治を祈るのみです。

アンケートに寄せられた

越中畑小学校区

賛 子どもたちの将来のために、早い時期の統廃合を希望する。

反 小規模校であれ、問題がない以上、統廃合する必要がない。都市中心的な考えの競争心理のみを重視する必要があるとは思えない。教育とは、地域、学校、親、子どもが一体となって成りたつものであり、それが行われている学校では必要が無い。

そ 何のため、誰のために統廃合するのかわからない。地域の学校として生き残る道が必ずあるはず。統廃合を議論するのは時間の無駄。こういう後ろ向きのアンケートはやめてほしい。

川尻小学校区

賛 各学校の一学年の人数が少なく複式学級になっているので、複式学級をなくするために統廃合した方が良いと思います。1学年せめて10人はいた方が良いと思います。

反 統廃合をしなくても共通の学校行事を一緒に行うなど色々工夫して良い教育ができると思います。統合すると子どもたちの通学時間が長くなることや地域の衰退に拍車がかかることが想像されますので反対です。

そ 統廃合ばかりにとらわれないで、この学校に子どもを入れたいと思わせる特色のある学校づくりをお願いしたい。

故・久保喜代理（きよとし）さん（泉沢）

自治活動の貢献で旭日単光章

昨年の11月22日、82歳でお亡くなりになった久保喜代理さんの生前の自治活動の功績が認められ、旭日単光章が授与されました。

久保さんは、昭和42年から昭和62年までの間に3期12年沢内村議会議員として地方自治の発展に献身的に寄与されました。

また、消防団本部部長、選挙管理委員、農業委員会委員、教育委員なども歴任し、農業振興、工業振興、教育振興などあらゆる分野で指導者的立場として尽力してきました。

1月31日町長と新田助役が久保さんの自宅を訪れ、久保さんの今までの活動に感謝しながら伝達が行われました。伝達には北上市に在住する長男の孝喜さんが駆けつけ、仏前で行われました。

伝達後、町長は仏前で手を合わせ「生前はいろいろお世話になりました。ありがとうございます。今後もわたしどもを見守ってくださるようにお願いします」と言葉をかけました。

孝喜さんは「おやじが受章したけれども、これは地域のみなさんに支えてもらったおかげです。あらためて思うと、おやじは極めてまじめな生涯を過ごしたし、本当に最大のお褒めを授かり、喜んでくれていると思います」とお礼を述べました。

ご冥福をお祈りします。

【主な経歴】

○沢内村選挙管理委員会委員
昭和29年から昭和38年まで

○沢内村消防団員
昭和20年から昭和55年まで（52年から55年まで本部部長）

○沢内村森林組合監事
平成9年から平成18年まで

緑十字銀章・石井昭午さん（川舟）

無事故無違反57年間

平成19年1月17日、第47回交通安全国民運動中央大会で、石井昭午さん（川舟・76歳）が交通栄誉の緑十字銀章を受賞しました。

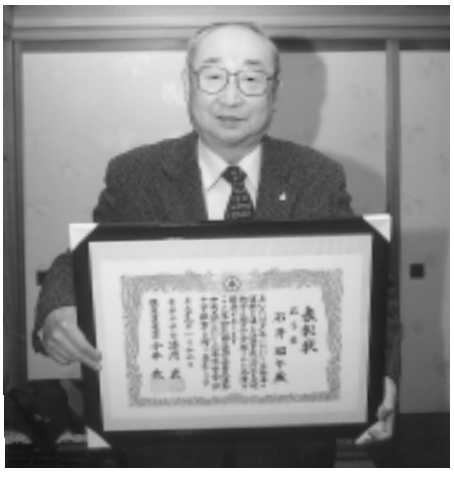
石井さんは、今までの交通安全運動に対する貢献と運転免許取得後から現在にいたるまで57年間の長い間、無事故・無違反であることから今回の栄誉となりました。

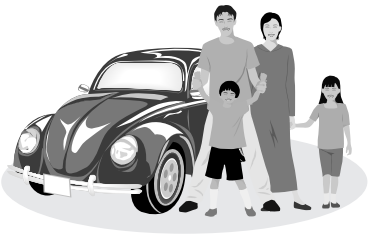
「特別に努力したり意識したわけではないが、おやじ（卓郎さん）も銀章を受賞しているので、それに近づきたいという気持ちはあったが、いざ受賞するとえらいものをもらってしまった」というのが実感だと笑いながら話す石井さん。

免許を取得した昭和25年当時は、自家用車を所有する人も少なく、移動はバスやトラックだったと言います。石井さんは車好きが高じて免許を取得しました。

石井さんの運転に対する信条は、①法令順守②ゆずりあいの心③車間距離の確保④車両の点検整備⑤自己の健康管理⑥自分の能力を過信しないことで、それを念頭に運転してきました。

今でも盛岡の病院などに通う際には自分で運転し「高齢者は、自分の年齢と相談しながら、自己本位にならずに他人の気持ちになって運転する必要がある。冬道での急ハンドル、急ブレーキは絶対にダメ」と法令を守り、安全に気をくばりながら運転しています。





地域担当職員の紹介

各地区に2人ずつ配置

町では、平成18年度から地域自治活動支援事業を進め「自治活動支援交付金制度」と「地域担当職員制度」の二つを柱として、地域ごとに異なる課題を人的・資金的な面から支援します（詳しくは平成19年広報1月号16ページ・みんなのひろばをご覧ください）。

各地区の担当職員は次のとおりです。（平成19年2月1日現在）

行政区	担当職員名			
	主担当		副担当	
	課名	氏名	課名	氏名
貝沢区	建設課	藤原 光記	総務課	高橋 三智昭
若畑区	農林課	野中 孝勇	保健福祉課	吉田 博樹
川舟区	農業委員会	和泉 昭	保健福祉課	吉田 祐康
長瀬野区	建設課	米澤 清人	生涯学習課	高橋 光世
泉沢区	農林課	内記 和彦	企画課	加藤 真喜子
弁天区	町民課	深澤 吉一	生活環境課	北島 克人
猿橋区	病院事務室	佐々木 一	総務課	深澤 早苗
太田区	税務課	高橋 健司	生活環境課	泉川 道浩
鍵飯区	企画課	高橋 智昭	税務課	川本 陽子
前郷区	保健福祉課	深澤 千里	病院事務室	内記 良伸
新町区	議会事務局	高橋 義雄	保健福祉課	為田 美代子
大野区	保健福祉課	内記 忠	行革推進室	畠山 幸雄
東大野区	農林課	内記 博悦	農業委員会	泉川 真澄
左草区	学務課	藤原 利雄	税務課	宇都宮 清美
下前区	総合サービス課	竹沢 清一	農林課	佐藤 幸弘
湯田区	出納室	高橋 利美	保健福祉課	佐藤 里美子
湯本区	議会事務局	平藤 節夫	企画課	小林 英介
槻沢区	保健福祉課	柏崎 繁美	総務課	刈田 哲彦
湯之沢区	観光商工課	高橋 達	病院事務室	小林 雅彦
川尻一区	町民課	高橋 文一	総務課	泉 恵子
川尻二区	生活環境課	高橋 勇一	建設課	東海林 智義
川尻三区	生涯学習課	新田 満	行革推進室	真壁 一男
耳取区	総務課	高橋 智	保健福祉課	高橋 かの子
草井沢区	生涯学習課	山本 正子	企画課	小松 重貴
鷲之巣区	建設課	高橋 典夫	企画課	柳沢 里美
湯川区	観光商工課	門脇 和男	建設課	高鷹 仁
小繋沢区	企画課	菅原 利明	建設課	佐藤 太郎
越中畑区	税務課	菊池 一治	総務課	照井 哲
白木野区	学務課	小原 茂喜	総合サービス課	菅原 久美子
野々宿区	町民課	米沢 典子	農業委員会	高橋 弘務
柳沢区	建設課	高橋 巧	総合サービス課	田村 初子

ゆきあかり・雪まつり

2月10日から11日町内で雪あかりが行われました。実行委員会（会長・佐藤一久西和賀商工会長）では、ことしから範囲を沢内地区まで広げ「雪あかり2007inにしわが」と題し、さまざまなイベントを行いました。

また、2月10日湯本小学校グランドでは湯田地区の有志による第15回湯田の雪まつりが行われました。

●沢内地内でも

沢内地区の世帯や事業所でもめいめいのゆきあかりが灯されました。（写真①）

●灯りの小道

左草地区と下前地区による「灯りの小道」はことしで11年目で雪あかりの名物です。（写真②）

●毎年の力作雪像

高橋正夫さん（湯田）では、毎年のその年の干支にちなんだ手の込んだ雪像を製作しています。（写真③）

●タイマツ片手に

10日午後7時に湯田スキー場の山頂から西和賀町スキー協会員などがタイマツ片手にシュプールを描きました。（写真④）

●湯本温泉かまくら村

湯本地区では湖岸公園に大きなかまくらをつくり、その中では観光客も交えたうたげが行われました。（写真⑤）

●雪見橇が復活

光寿苑（太田祖電苑長）では、数年ぶりに雪見橇が復活。入所者が2人乗りの橇で、光寿苑から湯本温泉かまくら村までの道のりを地元の若者に引かれながら往復しました。（写真⑥）

●大もちまきと花火打ち上げ

湯田のゆきまつりの恒例行事となった大もちまきは、我先にともちを拾う観客の姿がありました。また、締めは花火の打ち上げ。夜空は残念ながらガスが覆っていましたが、その花火の音は大地にこだましました。（写真⑦と⑧）

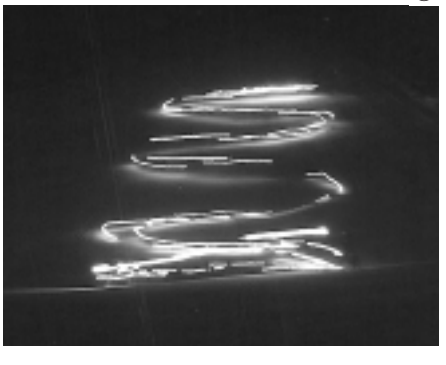
●お湯に感謝・謝湯雪中神輿

西湯会（佐々木勉会頭）では11日湯田トレセンで町内にある温泉を奉納した後、湯本地区内を大きなかけ声と共に練り歩きました。（写真⑨）

①

②

③

④


⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

第13回

ほっとゆだ2007北日本雪合戦大会

湯田中生徒が優勝

一般の部2～3位を独占

2月3日から4日湯本小学校グラウンドで「ほっとゆだ2007北日本雪合戦大会」が行われました。ことしで13回目を迎えた大会には、遠くは千葉県など町内外から一般の部に48チーム、ミックスの部に28チームが出場し雪上で激しいバトルが繰り広げられました。心配されていた雪不足も前々日から降り積もった雪が、大会関係者の胸をほっとさせて下ろしました。

一般の部の決勝戦で地元出場の南部レイダースが昨年優勝の「銭形平次」に惜しくもやぶれ2位になったほか、クールス、西武レイダースが3位に入賞し、本町からの出場チームが上位を占めました。

また、女子の選手が3人以上参加するミックスの部では、メンバーが湯田中生徒によるJr.はいすクールスが見事初出場で、初優勝しました。

キャプテンの佐々木貴宏君（3年・湯本）は「最初は優勝を意識していませんでしたが、決勝リーグに進んだので、ここまできたら優勝しかないと意識しました。チーム全員の息のあった連携が優勝に結びついたと思います」と大会を振り返り勝利の喜びを表していました。

本大会は2月24日から25日まで北海道壮瞥町で行われる第19回昭和新山国際雪合戦の岩手県予選会も兼ねており一般の部の上位4チームが県代表として参加します。

南部レイダースの佐藤英行監督（湯田）は「優勝できずに残念だが、今大会を糧に、昭和新山大会では優勝してきます」と力強く話していました。

【一般の部】の結果

①銭形平次（岩手県紫波郡）②南部レイダース（西和賀町）③クールス（西和賀町）③西部レイダース（西和賀町）

【ミックス】の結果

①Jr.はいすクールス（西和賀町）②西和賀ファイアーズB（岩手県和賀郡）③サクラシンマチ（岩手県下閉伊郡）④三段腹（岩手県一関市）

優勝を喜びあうJr.はいすクールス

まちづくりのヒントに！

葛巻町長を招き 新春講演会

「葛巻町は、この西和賀町と違って何もないところ。この小さな町が30年間で畜産と新エネルギーで日本一を2つ手にすることができた。やれることをやろう。現状維持、去年と同じでは、後退と同じ意味。世の中は進んでいるので、現状維持では21世紀は生き残れない。どんなアイデアも実現できる、という意識が必要。そして当たり前のことを一生懸命やる、危機感とプロ意識を持ち、情報の量が仕事の質を変えていく」と述べました。

葛巻町は「北緯40度 ミルクとワインとクリーンエネルギーのまち・葛巻町」をキャッチフレーズに、特に風力発電、太陽光発電、畜産バイオマス発電などの環境に優しい新エネルギー発電に取り組んでおり、これらの新エネルギーの供給量は町内の電力消費量の8割をまかなうまでになっています。また、畜産やワインなどの生産に力を入れて、先進的なまちづくりを行っています。

会場にはおよそ230人が来場し、中村町長の話にうなずきながらメモを取っていました。

積極的に事業を展開する中村町長

町などが中心になり、西和賀町合併一周年新春講演として2月12日銀河ホールで新春講演会を行いました。

講師は葛巻町長の中村哲雄さんで『これぞ「町おこし」産業振興は「あるもの探し」から』をテーマに「株式会社〝岩手県葛巻町〟のまちづくり」と題し講演を行いました。

中村町長は、昭和46年に日本大学農獣学部獣医学科を卒業し葛巻町役場に入庁しました。畜産担当として5年間勤務した後、（社）葛巻町畜産開発公社に出向し以来23年間勤務しました。平成11年8月に町長に就任し現在に至ります。

中村町長は講演の冒頭で「これは町長のひとりごとですから」と断り、まちづくりの考え方を述べました。

豆まきで鬼をこらしめる 商工会青年部の豆まき

節分の日にちなんで、2月2日商工会青年部（淀川豊部長・川尻）では、湯本保育園、せんだん保育所、川舟保育所の3園で豆まきを行い園児らと交流を深めました。

せんだん保育所（志賀久満喜子所長・園児41人）には、同部副部長の石川英賢（ひでたか）さん（大野）と佐藤秀樹さん（大沓）の二人が鬼に変装し、保育所に現れました。

園児らは「鬼はそと、福はうち」と大きなかけ声とともに炒った豆をぶつけました。鬼は降参し、仲直りの印に折り紙セットを園児に配りました。

豆まきは、邪気を払い、風邪をひかない丈夫な体をつくると言われています。

鬼と仲良しになった園児たち

暖冬の影響か？ 1月にバッケが咲きました

この2日後の大雪でバッケも雪の下に

西和賀地方では春の訪れを告げ、雪が解ける4月ころから咲き始めるバッケ（フキノトウ）。

高橋企行（きこう）さん（川尻）の自宅裏でバッケが咲きました。

高橋さんは「自宅裏の小屋の下にどれくらい雪が積もっているのかを確認するため裏に来たらバッケが咲いていた。1月にバッケをみるのは初めて。びっくりした」と話していました。

この場所は、例年であれば1m50cm以上は雪が積もっている場所です。周辺を見渡すと西日があたるこの場所にだけ咲いていました。

高橋さんは「たまげだ天気だ。楽でいいどもな」と話していました。

農業施策の核に 農業振興センター設立

町の農業振興の中核として機能をはたす西和賀農業振興センターが1月17日に設立されました。

沢内庁舎で行われた設立総会には、関係者などおよそ20人が出席しました。総会では定款や事業計画を決めたほか、会長に吉田正志（しょうし）さん（川舟）を選出しました。

同センターは、従来型の振興策とは別の視点から、新たな振興策を行い先導型農業経営を推進するための組織です。今後はNPO法人として認証をうけていくほか、品種開発や生産・販売活動を関係団体と連携し強化していくことにしています。

設立準備会長の佐々木覚さん

地域と住民の協力で 高齢社会を支える

「地域の協力が欠かせない」

岩手中部地区広域市町村圏事務組合（管理者・大石満雄花巻市長）による地域フォーラムが1月27日銀河ホールで行われました。

元NHK解説委員の村田幸子さんの講演があり、村田さんは「地域で支える高齢社会」と題し、福祉現場での取材の体験を交え「当たり前の生活をどの人にも保障する社会には、住民参加が必要です」と説きました。

引き続き、団塊の世代などの受け入れを促進することを内容としたシンポジウムが行われ、渡辺哲哉さん（両沢）がパネリストとして参加しました。

250人あまりの観客は、講演とシンポジウムに、耳を傾けながらうなずいていました。

食育で優秀賞 猿橋小学校が受賞

賞状を受け取る愛斗君

猿橋小学校（皆川豊子校長・児童32人）は岩手食育推進協議会の平成18年度食育活動表彰で最高賞にあたる優秀賞を受賞し、2月15日同校で伝達式が行われました。

同校は「学校給食における学校・家庭・地域の連携推進事業」の研究推進校として平成17年から18年度の2年間食育の実践研究に取り組んできました。それらの取り組みや成果が評価されたもの。

児童を代表し、児童会の運営委員長である高橋愛斗（まなと）君（両沢）が「食育では各学年毎にテーマを決めて取り組んできました。これからも食育に興味をもっていろいろな生活に生かしていきたい」と決意を述べました。

西和賀町消防団 優良消防団として表彰

2月8日東京都港区のニッショーホールで第59回(財)日本消防協会定例表彰式が行われ、西和賀町消防団が優良消防団(表彰旗)として表彰され、日消旗を授与されました。この度の表彰は町村合併と同時に旧町村の消防団が統合し発足したことなどが高く評価されたものです。

表彰式に出席した高橋久雄消防団長（弁天）、副団長の糯田勉さん（川尻）と柿澤繁俊さん（鍵飯）が、2月13日に町長を訪れ受賞報告を行いました。

この日消旗を授与されることは、消防団にとっては名誉あることで、今回は県内で唯一の受賞団体になりました。

写真左から町長、高橋団長、糯田副団長、柿澤副団長

西和賀町を博物館に むしろ織り体験ツアー

水平に編むのが難しいむしろ織り

町は西和賀エコミュージアム推進事業の一環として、2月18日ブナの森自然塾さそう館でむしろ織り体験と郷土食満喫ツアーを行いました。ツアーには、町内や北上市、奥州市などから20人あまりが参加しました。

この事業は、町を生きた博物館にし、町内の自然や文化、伝統技術、農業体験などを見たり体験したりすることです。

川尻から参加した近藤貞夫（70歳）さんは「小さいころに、むしろを編むのを見たことがあるが、実際にやると難しいな。でもおもしろいね」と話しながら作業していました。

参加者らは、むしろ織りやこんにゃく作りに挑戦し、昼には郷土食の納豆汁を食べて文化と食を満喫しました。

みんなで心地よい汗流す 川舟の雪上運動会

2月18日川舟小学校グラウンドで第29回川舟小学校区学区民雪祭りが行われ、地区民や川舟小学校教職員などおよそ200人あまりが参加しました。川舟地区では毎年この時期に若畑支部、高下・新山支部、川舟・丸志田支部の3チーム対抗で雪上運動会を行っています。

大会長の中川昭彦区長は「この行事は地域住民がふれあい、世代をこえて地域間交流の活性化を図ることを目的に行っています。今日一日楽しくすごしましょう」とあいさつしました。

その後ムカデリレー、かんじきを履いてボールをけるかんじきサッカー、川舟横断ウルトラクイズなどおよそ10種目を行い、ことしは若畑支部が優勝しました。

力がはいる綱引き

固い斜面でもへっちゃらさ

湯田カップGS大会
地元選手上位入賞

1月25日西和賀町スキー協会が中心になり湯田カップジュニアGS（大回転）スキー大会が行われました。この大会は、西和賀町スキー協会（五十嵐幸雄会長・川尻）が主催ですが県スキー連盟が共催するとあって県内の小中学生大会としては人気で、町内外から134人の選手が出場しました。

暖冬の影響で、スキー場でも雪が不足し小学生3年以上は2回滑った合計で順位を決定するものを、1回だけと競技本数を減らして行われました。

県内のスキー場は雪が不足し練習不足で本領を発揮できない選手が多い中、町内選手は地元の利を生かして上位に入賞しました。

小学校1・2年女子で優勝した竹澤みさとさん（槻沢）は「緊張したけど一位になれてよかったです。ポールを曲がっていくのが難しかったよ」と大会を振り返っていました。

小学校1・2年男子で優勝の悠太君

【大会結果―3位まで】

◆**小学校1・2年女子**①竹澤みさと（湯田スキースポ少）◆**同1・2年男子**①高橋悠太（湯田JRレーシング）◆**同3・4年女子**②高橋優衣（湯田JRレーシング）◆**同3・4年男子**①栗谷京生（湯田JRレーシング）②高橋佑哉（一本杉スポ少）③高橋洋輝（一本杉スポ少）◆**同5・6年女子**③刈田ルル（志賀来スポ少）◆**同5・6年男子**③刈田雄平（湯田JRレーシング）◆**中学校女子**①栗谷芽依（湯田JRレーシング）②刈田あり紗（沢内中）③竹澤きさき（湯田JRレーシング）

志賀来JRアルペン
クロスカントリー大会

1月20日志賀来スキー場で第24回志賀来ジュニアアルペンスキー選手権と第16回志賀来クロスカントリー選手権大会兼第3回沢内ジュニアクロスカントリースキー大会が行われました。大会は、西和賀町スキー協会が中心になり、74選手が出場し日ごろの練習の成果を発揮しました。

【大会結果―優勝のみ】

■志賀来ジュニアアルペン

◆**小学校男子大回転**①栗谷京生（湯田JRレーシング）◆**同女子**①佐藤麻美（志賀来スポ少）

■志賀来クロカン
沢内ジュニアクロカン

◆**小学校男子1年**①丹波亜也人（川舟スポ少）◆**同2年**①佐々木康明（志賀来スポ少）◆**同3年**①石川元太郎（志賀来スポ少）◆**同4年**①吉田雅昴（川舟スポ少）◆**同5年**①佐々木拓哉（志賀来スポ少）◆**同6年**①佐々木翼（志賀来スポ少）◆**小学校女子1年**①岩井マキ（貝沢小）◆**同2年**①佐々木優夏（志賀来スポ少）◆**同3年**①小森彩羽（貝沢小）◆**同4年**①佐々木しおり（志賀来スポ少）◆**同5年**①田中ゆかり（志賀来スポ少）◆**同6年**①高橋菜々子（志賀来スポ少）◆**一般男子**①佐々木保弘（太田）

緊張してスタートを待つ選手

川尻小

雪合戦全国大会
惜しくも5位にとどまる

2月11日広島県庄原市高野町の高野スポーツ広場で第6回全国小学生雪合戦大会が行われました。本町からは、昨年の1月に宮城県で行われた第5回全国小学生雪合戦大会で準優勝した川尻小学校の選抜チームが招待選手として出場した。

この大会は、日本雪合戦連盟や庄原市などが中心になり行っていますが、庄原市は広島県の北東部にあり、冬期間は1mほど雪が降り積もります。しかし、大会当日は暖冬のため積雪は3cmしかなく、大会事務局では急きょ人工芝を購入しコートを設営し、雪玉に使う雪をトラックで運搬し大会を行いました。本大会には富山、徳島、島根などから30チームが参加しました。

予選リーグを突破した川尻小学校選抜チームの川尻ブラックベアーズは、10チームによる決勝リーグにコ

秋田わか杉国体に3人出場

高橋北斗さん（間木野）2年連続出場で27位

秋田わか杉国体冬季大会は、2月10日から13日まで秋田県仙北市たざわ湖スキー場などを中心に行われました。この大会に町内からは3人が出場しました。

【アルペン競技】

アルペン競技はたざわ湖スキー場で行われ、高橋北斗さん（西和賀町スキー協会・間木野）が成年男子C（35歳～40歳）の大回転に出場しました。昨年のスキー国体にも出場しているためことしで2年連続出場となりました。

結果は全日本のデモンストレーターや全日本ナショナルチームの選手などが出場するなか72番と遅いスタート順から27位と大健闘しました。

高橋さんは「2回連続の出場で自分なりの自信につながったし、昨年は転んで記録が無かったので今回はどんな滑りをしてでもゴールする気持ちで臨んだ。今後も挑戦を続け、さらに上位を目指したい。全国に通用するように練習をして一つでも順位を上げていきたい」と意気込みを話していました。

【クロスカントリー競技】

クロスカントリー競技は鹿角市鹿角広域交流センターで行われ、町内からは西和賀高校のスキー部の照井大地君（2年・貝沢）と大澤一成君（2年・若畑）が少年男子（昭和63年4月2日以降生まれ）の部に出場しました。少年男子の部は10㎞の距離で競い合います。その結果、照井君がトップと4分40秒差で59位、大澤君が6分差で76位と残念な結果になりました。

しかし、少年男子リレー（10㎞×4）の岩手県チームのアンカーに照井君が出場し見事8位に入賞しました。2人とも2年生で、この経験をさらに生かし飛躍してほしいものです。

果敢にポールを攻める高橋さん
写真：山本幸男さん（川尻）

全国中学校スキー大会

この経験をレベルアップに

2月6日から9日まで長野県野沢温泉村野沢温泉スキー場で第44回全国中学校スキー大会が行われ、町内から沢内中学校の生徒7人が出場しました。全員が1月28日から30日まで青森県の大鰐スキー場で行われた東北大会に出場し疲れも残ったまま全国大会を迎えました。女子リレーでは岩手県チームの一員として出場し女子7位、男子も9位に入賞し、伝統を守ることができました。今回の経験を生かし、次の大会につなげてほしいものです。

【大会結果】

男子クロスカントリー

◆**5㎞クラシカル**㉟田中正博（3年・新町）◆**5㎞フリー**㊿佐々木涼太（3年・前郷）㉑田中文博（2年・新町）◆**リレー5㎞×4**⑨岩手（佐々木涼太君がアンカーで出場）

女子クロスカントリー

◆**3㎞クラシカル**㉞刈田丞美（3年・川舟）㊼久保絢（3年・若畑）㉒高橋紘枝（3年・前郷）◆**3㎞フリー**㊿刈田丞美㊽久保絢㉖高橋紘枝◆**リレー3㎞×4**⑦岩手（刈田丞美さんが1走、久保絢さんが2走で出場）

男子アルペン

◆**回転**㉖竹澤統己（2年・新町）◆**大回転**㉞竹澤統己

女子リレーで刈田さん（右）から久保さん（左）にタッチ　写真：刈田敏博さん（川舟）

マを進めました。対戦の相手は今大会優勝の高野雪合戦部㊐（庄原市高野町）です。試合は惜しくも敗れはしたものの、雪合戦王国西和賀町の強さを全国にアピールしました。

およそ100万円の遠征費は、西和賀町雪合戦協会（鈴木智之会長）が中心になって、町内の事業者や個人に募金をつのりました。

「来年は優勝」と誓う川尻ブラックベアーズの選手
写真：西和賀町雪合戦協会

●来年は本町で●

来年行われる第7回大会は本町で行われることが決定しています。

1月23日放送分

生活習慣病について

厚生労働省では平成12年（2000年）から「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）」を展開してきました。しかし、糖尿病、高血圧、高脂血症などの生活習慣病は増加しており、その原因には内臓脂肪型肥満が大きく関係していることが明らかになっています。また、平成16年国民健康・栄養調査では、中高年のうち男性の2人に1人、女性の5人に1人がメタボリックシンドロームかその予備群とされています。

メタボリックシンドロームとは、内臓脂肪の蓄積から生活習慣病を複合的に発症する病態のことで、心筋梗塞や脳梗塞などの合併症を引き起こす怖い病気です。

診断基準は、まずウエストが男性で85cm以上、女性で90cm以上で、①空腹時血糖値が110以上 ②中性脂肪値が150以上、あるいはHDLコレステロール値が40未満 ③最大血圧が130以上、あるいは最小血圧が85以上 これら3項目のうち2つ以上当てはまる人はメタボリックシンドローム、1つ当てはまる人は予備群です。平成18年度に町で行った成人病検診では、男性の5人に1人、女性の17人に1人がメタボリックシンドロームでした（平成19年1月17日現在）。

予防には生活の見直しが必要です。食べ過ぎず、よく運動して内臓脂肪を減らしましょう。そして定期的に血液検査を受け、体調に合わせて食事の方針を切り替えていきましょう。

（沢内病院主任栄養士　三又静英）

有線放送から

くらしと健康

有線で放送した「くらしと健康」から抜粋しお知らせします

1月16日放送分

かたくりの園での1日

高齢者社会福祉センターかたくりの園は、平成6年に開設され今年で12年になります。現在の利用者は86人で、1日平均およそ25人が通所しています。

1日の様子ですが、まず午前中はかたくりに到着後、体温や血圧の測定を行ってから入浴します。入浴後はお茶を飲んでリラックスし、ほかの利用者と話をしたり、体を休めたりしています。

午後からは体操をしたり、3つのグループに分かれて活動します。1つ目のグループは裁縫や折り紙などの手芸活動。裁縫では座布団カバーやこたつがけ、折り紙ではくす玉やのれんなどを作ります。2つ目のグループは足湯やマッサージ。体のふしぶしが痛い方のために、足湯や赤外線機器を使うほか、職員による部分マッサージも行います。3つ目のグループは「ほっとコミュニケーション」といい、昔語りやリハビリを兼ねたレクリエーションを用いて利用者と交流を図っています。

利用者には在宅で生活していくために、日常生活における残存機能を維持できるよう配慮しています。これは家族の介護における身体的・精神的負担の軽減を図ることにもなります。

これからも利用者や家族に「通所してよかった」と喜んでいただけるよう努めていきたいと思います。

（かたくりの園介護職員　内記美雪）

1月30日放送分

適度に動いてきちんと食べよう

寒い冬を乗り切るには、適度に動いてきちんと食べることが大切です。

寒さで筋肉が縮んでいますので、けがや腰痛を予防するため、作業をする前には必ずストレッチ体操をして筋肉をほぐしましょう。また、寒いと前かがみになり、肩こりの原因にもなりますので姿勢にも気をつけましょう。作業後にもストレッチをすると筋肉にはやさしいですね。

寒いからといって厚着をし過ぎると、動きがおっくうになったりするので調整しましょう。汗ばんだときは、風邪の予防の点からも着替えるようにしてください。手洗い、うがいもしっかりしましょう。

食生活では、寒さに負けない栄養をとることです。冬らしい食べ物といえばなべ物、天ぷら、揚げ物、湯豆腐などがあります。特になべ類は、室内の乾燥を防ぎ、体を温め、さまざまな食品をまんべんなくとれる理にかなった食べ方です。けんちん汁や具だくさんの味噌汁も、ビタミンやミネラル、食物繊維がとりやすくなります。

最後に、冬によく食べるみかんについて。こたつに入ってテレビを見ながら食べる人も多いと思いますが、食べ過ぎるとおなかが冷えて体調を崩すことがありますので気をつけましょう。

（保健福祉課栄養士　高橋留美子）

みんなのひろば

むがしっこ復活を

広報さわうちに20回にわたって連載された沢内風土記から始まる年代記たどり読みの「さわうちむかしかたり　むがしっこ」は、楽しい読み物でした。毎月少しずつ読めることになった時は、次号が待ち遠しく保存していました。いよいよ佳境に入ったところで終了したことは誠に残念でした。年代記によれば、湯田と沢内のあわせた69村落が始まりだったそうです。どうかその続きを、広報にしわがに掲載してもらえばうれしく思います。

（東京都小金井市　佐々木貞雄）

回答

ご指摘のとおり、広報さわうちでは、沢内年代記のたどり読みとして毎月1ページを割き掲載していました。第20回目で市町村合併をむかえ広報さわうちが廃刊になったことから、ご指摘のとおり終了しました。

合併の際には、双方の広報で行っていた企画を今後どのように取り扱うのかを、担当課長や担当者を含めて話し合いました。

「むがしっこ」をそのまま続けた場合は、湯田地域のみなさんにとっては21回目からの読み始めとなり中途半端になります。第20回までの内容を抜粋し、その続きを掲載していくことも検討しました。かといって第1回目から始めることもできないと判断し企画を終了した次第です。今のところは掲載を見合わせたいと考えています。

（広報にしわが編集室）

感動をありがとう

2月18日（日）午前10時からNHK総合の日本再発見という番組で、およそ1時間にわたり湯川温泉の小さなとり組みが全国放送されました。高橋繁廣さんなどの企画によるもので、豪雪地帯の奉納相撲など湯川温泉の若者たちが、一人暮らしの老人宅の除雪をしたり、さまざまな雪の中での暮らしの様子が広く全国に紹介されました。

小生は、この番組を見て、これが西和賀町のエネルギーの源であると確信しました。とかく引き込みがちになる雪の中での生活をまざまざと見せつけられた思いです。繁廣君、仁君、達君、武雄君、武田君、草弸君など湯川地区の若者諸君の活動に頭が下がり、勇気と元気をもらいました。

今後も西和賀町と湯川温泉の発展のため、ますます頑張ってください。

（湯田・高橋成治）

昨年の奉納相撲の様子

議会だよりに思う

以前から議会だよりの発行が遅すぎると感じています。12月15日から21日まで行われた議会の様子が2月15日に各家庭に配布されました。議会の内容を知ったのは、なんと2か月後です。

旧沢内村では有線放送があって議会の様子が中継されるようですが、旧湯田町の人には情報の伝わる速度が違い過ぎます（なぜ、情報伝達にこれほど不公平があることを町はいつまでも是正しないのか、そのことも不可解でなりませんが・・・）。

そこで、なぜこれほど発行が遅れるのかその理由と今後の改善策についてお聞きしたいと思います。せめて、議会後2週間程度でだせないものでしょうか。遅くとも1か月以内には発行するべきだと思います。

もう一つお願いです。議員と当局のやりとりが掲載してありますが、誰が答弁したのかわかりません。町長なのか教育長なのか、担当課長なのか。今後は答弁者が誰かわかるように書いてください。

（湯本・男性・50歳代）

回答

議会だよりは、議会事務局でいったん文章を作ってから、その後に議員で構成される編集会議（編集長・早川議長）にはかり発行しています。

議会だよりを作成する際は、議員の質問と当局の答弁の内容に間違いがないように慎重に作業する必要があります。そのため作業は、会議の録音テープを聞き文章にしていきますが、簡潔で公正な作業を伴います。このような作業内容が伴うことから、1人の議員の質問と当局の答弁を文章に表し記事にするにも大変な時間がかかることをご理解願います。

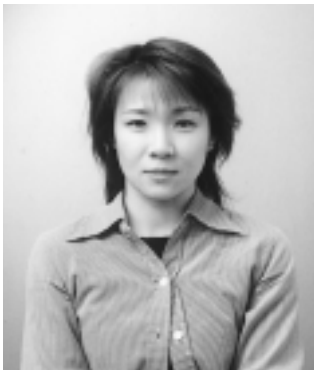
ほかの自治体の発行状況もおおむね2か月を要していることから、本町が特別に遅いという状況ではないことも付け加えておきます。

また、議員の質問に対する当局の答弁は、町長であっても担当課長であっても、町としての回答や姿勢となりますので、あえて答弁者を記載していませんでした。以上の2点は、今後編集委員会で検討したいと考えています。

（議会事務局）

ありがたきかな故郷（ふるさと）⑩

秋田県大仙市出身 北島仁子（きみこ）さん（新町）



「もしどこかでわたしを見かけたら声をかけてくださいね」と話す北島さん

「学生時代のゼミの旅行で自宅から目と鼻の先にある雪国文化研究所を訪れていたこと、嫁ぎ先の祖父（故・北島暲男さん）と誕生日が同じだったことも不思議なご縁」と話し、現在は女性用下着などを販売するシャルレ藤田代理店（猿橋）で事務員として勤務する北島さん。「シャルレ商品を通して県内外の人と交流できることがこの仕事の最大の魅力」と話し営業の毎日です。

？あなたの出身地を教えてください

旧大曲市です。平成17年3月22日に合併し大仙市になりました。

？西和賀町に住むようになった理由

横手市に勤務していた時に夫と知り合い、外見とは違った優しさにひかれ結婚し、新町に嫁ぎました。

？出身地はどんなところですか

街と自然がほどよく調和しているからでしょうか、おととしの『日本でもっとも住みやすい都市』のナンバーワンに選ばれました。積雪量もここに負けない位多いですね。

？名所や観光スポットなど

全国花火競技大会が有名です、最近では、夏、冬と2～3回にわけて花火が鑑賞できるようになりました。冬の花火も人気がありますよ！

？西和賀町の良さ

自然と温泉しかないと話す方が多いのですが、むしろこのような環境こそが現代では貴重ですし、雪好きにはたまらない、何ともいえない雪景色の風情が日常的に手（目）に入るのは幸せなことだと思います、この自然と人間社会の共存が成功すればなおいっそう幸せですね。

大仙市データ（H17.10.1国勢調査）
人　口　93,352人
世帯数　28,381世帯
面　積　866.68㎢
ホームページ
http://www.city.daisen.akita.jp/

おじゃします 事業所訪問 ②

団　平（大沢）

■紹介者　高橋雅樹さん（桂子沢）

大沢地区にある団平では、もち菓子を製造し、ことしで操業18年目を迎えます。

社名の由来は「だんごの団と親類やおやじの兄弟の名前に平がつくので語呂合わせで団平にしたと聞いています」と話す高橋さん。「主力商品は大福とくし団子ですが、季節に応じて桜もち、彼岸だんご、柏もち、月見もちなどを作ります。月で違いますが、大福は1日２０００個ほどを作ります。西和賀町も人口や観光客の減少で、我々が生き延びるには厳しい時代を迎えています。しかし、中途半端な商品はださないこと、ほかに似た商品があってもおいしさでは負けないこと、できるだけ地元の素材を使うことが団平の商品開発のこだわりです。口コミで広がり買いにきてくれる、そんな商品開発を続けていきたいですね」と話しています。

こんなことしています ②

（ボランティア・サークルなどを紹介するコーナーです）

おろせ倉に奉仕の光り

■紹介者　高橋武雄さん（湯本）

今年で5年目を迎えるおろせ倉のライトアップの仕掛け人は高橋武雄さん（湯本）で、現在も一人で行っています。「ライトアップしたらどうなるか」と思ったのがきっかけです。ライト以外の発電機などと燃料は自前で「毎年何か一つでもやり遂げた事があれば健康管理にもつながる。心の中ではなまけたくて寒くてやんだなと思っても、体がなまけたくないのでやめるわけにもいかないな。一区切りとして10年間はやりたいもんだ」と話しています。このライトアップは冬期間だけで3月初旬の金・土の午後6時～午後9時ころまで点灯しています（天候によります）。

地産地消のすすめ ②

（加工グループなどを紹介するコーナーです）

ゆきっこ味噌加工研究会

■紹介者
代表
宇都宮キワさん
（左草）

？設立などの経緯

昭和56年に加工場を作り、高橋フミさんが中心になって活動してきました。フミさんが亡くなってからわたしが引き継いでいます。設立からもう26年目になりました。当初は、子供や孫が学校から帰ってきたときに自宅にいたい、少しでもお金になったらいいという気持ちで始めたものです。

？何をつくっていますか

雪の白さと白味噌から名付けたゆきっこ味噌が主な商品です。みそ漬けや一本漬けも作っています。

？製品のこだわりは何ですか

何も化学調味料が入っていないことです。手作りで、麹も豆も自分たちで作っています。絶対、安全な味噌です。値段も頑張って当時のままでやっています。

？ひとこと

会員はみんな65歳以上で、後継者がいないことが問題ですが、若い人を入れながら、味を守っていきたいですね。昔に比べれば、設備もよくなり楽になりましたが、歳をとってからは難儀な仕事です。

ゆきっこ味噌

芸術・文化を楽しんで

（西和賀町芸術文化協会の所属団体を紹介するコーナーです） ②

コーラスあかまんま

■紹介者
代表
越後谷祐子さん（上野々）

？きっかけ

わたしが小学校のPTA役員のときに、「親と子の歌う会」を結成したのが始まりです。町民文化祭の出演をきっかけに現在の「あかまんま」として活動してきました。文化祭のほかNHKの番組などで紹介されたこともあります。平成17年には設立25周年記念として単独コンサートも行うなど、さまざまな舞台で発表を行っています。

？歌が好き

歌が好きというのはもちろんですが、発表の場があったからこそ活動を続けることができたと思います。専属の先生はいませんが、現在は湯田中学校の鈴木俊逸先生に師事し、月2回は練習をしています。

！ハーモニーを奏でましょう

できれば男性も加えた混声になれば、レパートリーも増えると思っています。ひとりでは歌えない人もみんで声を合わせて歌ってみませんか。うまく低音と高音が合い、きれいなハーモニーができたときは本当に心地よいですよ。会員は随時募集しています。

趣味で人生豊かに ②

写真を愛する
米澤四郎さん
（泉沢・84歳）

？きっかけ

中学校の用務員だったころから卒業記念アルバムなどのスナップ写真を頼まれた。自分の写真が使われるので学校ではアルバムを安くしてもらえたし、それがみんなに配られる。それが楽しくておもしくなったことだな。昭和55年の退職後も公民館行事、学校の入学・卒業時の記念写真を頼まれるようになった。

？写真は独学ですか

技術的には何にも勉強してない。写真を撮ったときに、どれだけの明かりが必要か、集合写真の場合はどうするか、それをメモして次に生かした。白黒写真は自分で現像や複写をしたもんだ。

？カメラは何を

最初は押せば撮れる機械だった。一眼レフも使ったが、当時は相当高価だった6×7も買った。今はデジタルカメラで写真をすぐ見ることができるのが良いね。

？写真のおもしろさは

絵はがきみたいなきれいな写真ではなく、何かを想像させる物語がないとだめ。また、光線、雲、時間帯などで同じ写真が撮れないことや写真のタイトルをつけるのも難しい。しかし、下手だろうがなんだろうが、自分でやったという喜びを感じることができるのがおもしろいところだ。

「こんどは連れていくから」の意味を込め『つれあい』とコメントした作品（平成10年さわうち「野の花」コンテストに入選）

～15:00
見学する企業／㈱東北サタケ、北上ハイテクペーパー㈱
参加者／小学生とその保護者15組30人
参加料／1組800円
申込方法／はがきや電話、ファックスなどで3月15日(木)まで申し込んでください。応募多数の場合は抽選になります。
問合先・申込先／〒025-8601 花巻市花城町9番30号　岩手中部地区広域市町村圏事務組合
☎0198-24-2111　FAX0198-22-7140
メール　iwachuu@michinoku.ne.jp

引越相談はトラック協会に

トラック事業者の団体である（社）岩手県トラック協会では「引越相談所」を開設し電話などによる引越相談に応じています。緑ナンバーのトラックを利用する引越や引越に伴う種々のサービスでお困りのことがあれば「引越相談所」をご利用ください。

3月～4月は引越シーズンのピークです。緑ナンバーのトラックの予約は早めにしましょう。引越運送、梱包などの見積書の作成は無料です。トラブル防止のためにも事前に見積をしてもらうことが大切です。

相談時間／月～金曜日までの8:30～17:00まで、FAXは終日受付しています
問合先／（社）岩手県トラック協会本部（矢巾町）　☎019-637-2171
ホームページ
http://www.iwatokyo.or.jp/

春季全国火災予防運動

3月1日から7日まで『消さないで、あなたの心の　注意の火。』を統一防火標語にかかげ、全国的に火災予防運動が行われます。

この時期は、空気が乾燥し火災が発生しやすくなります。そのため火災予防思想のいっそうの普及を図り火災の発生を防止し、火災による死傷者の発生や財産の損失を防ぎましょう。

昨年、町内では5件の火災が発生しています。寒さはまだまだ続きます。暖房器具の取り扱いには十分に注意するとともに、今一度火の元を確認し、住宅火災対策を行いましょう。

問合先／西和賀消防署☎84-2507

海外の話しを聞く会

西和賀町国際交流協会では、海外で活躍されている方や海外で研修された人からお話を聞く会を行っています。

今回は、アフリカのマリ共和国での農村の自立支援活動に取り組んでいる村上一枝さん（東京都）と、平成18年度のODA（政府開発援助）モニターとしてスリランカ視察に参加した平藤節夫さん（左草）のお二人からお話をお聞きします。入場は無料です。

日時／3月4日（日）10:00～12:00まで
場所／沢内庁舎集会室
問合先／西和賀町国際交流協会（農林課内）☎85-3415

除雪作業時は電線に注意

雪下ろしの際や除雪作業中に、電気の引き込み線を切ったなどの事故が発生しています。電気設備に不良個所があると感電や火災などの電気災害の発生につながる恐れがあります。作業をする際には十分に注意しましょう。

問合先／(財)東北電気保安協会花北事業所　☎66-3327

訂　正

広報にしわが1月号の裏表紙「マイホームアイドル」の記事で黒渕夢磨くんと記載していますが、正しくは夢磨くんです。

戸籍の窓（敬称略）

1月15日～2月18日受付分
※掲載を希望しない事も出来ます。届け出の際にお申し付けください。

お悔やみ申し上げます

齊藤ヨシ・91歳・川尻
深澤貞助・77歳・太田
髙橋タマ・97歳・湯本
光岡セツ・77歳・上野々
内記幸男・71歳・前郷
松井ヨリ・80歳・太田

ご誕生おめでとうございます

畠山香澄（かすみ）・女・幸雄・大野
味戸ゆい・女・道彦・川舟
大島美優（みう）・女・昌浩・越中畑
髙橋樹音（じゅね）・女・芳幸・間木野
藤原空（そら）・女・光広・槻沢

末永くお幸せに

髙橋愛子・村田恭平　弁天 宮城県
伊藤健勇・若林歩　清水ケ野 宮城県

住民の動き（1月末現在）

項目	実数	前月との比較
転入	10	—
転出	10	—
出生	3	—
死亡	6	—
人口	7,493	▲3
男	3,527	2
女	3,966	▲5
世帯数	2,524	▲3

交通事故の状況（1月分）

	物損	負傷	人身	死亡	飲酒
実数	17	4	2	0	0
累計	(17)	(4)	(2)	(0)	(0)

（　）は1月からの累計

火災・救急の状況（1月分）

■火災

区分	火災出場件数	損害額
件数	0件 (0件)	(0円)

■救急

区分	救急出場件数			合計
	交通	急病	その他	
件数	2件 (2件)	11件 (11件)	13件 (13件)	26件 (26件)
搬送人員	3人 (3人)	9人 (9人)	11人 (11人)	23人 (23人)

（　）は1月からの累計

役場から

農地に住宅建設計画がある場合

農業振興地域整備計画とは、農業の振興を図るべき地域を明らかにし、土地の有効活用と農業の近代化を総合的に進めるために「農業振興地域の整備に関する法律」に基づきおおむね10年間を見通して定めている計画です。

この計画では「農用地区域」が定められ、この区域を農業以外の目的で利用することが制限されます。農用地を住宅地などに転用する場合は農用地区域から除外する手続きが必要です。

期限／除外手続きは原則として農業振興地域整備計画の見直しの際に行うことになっており、平成20年度から5年の間に農地の転用を考えている方は農林課へ申し出てください。

除外要件／農用地区域から除外する場合、次の要件をすべてを満たさなければなりません

①農用地区域以外に代替する土地がないこと②農用地の集団化、農作業の効率化に支障がないこと③土地改良施設の機能に著しい支障がないこと④土地基盤整備事業完了から8年を経過していること

その他／平成19年度の計画見直期間中は個別の除外手続きはできませんので、平成19年度中に農地転用を計画している方は必ず3月30日までに申し出てください

問合先／農林課☎85-3415

国や県から

品目横断4月1日から加入手続き

品目横断的経営安定対策の麦は昨年11月30日に加入申請が終了していますが、4月1日から米・大豆の加入手続きが始まります。

受付は、岩手農政事務所(盛岡市)、地域第１課（水沢)、地域第２課（花巻）などで行われます。

対象農業者／①4ha以上の経営面積の認定農業者②20ha以上の経営面積の特定農業団体など

※経営規模要件には、物理的制約や所得などに応じた特例があります。

対象農産物／①生産条件不利補正対策(麦・大豆)②収入減少影響緩和対策(米・麦・大豆)

申請期限／4月1日～6月30日

その他／不明な点は、県、市町村、JA、農業委員会または農政事務所及び地域課、統計・情報センターまでお気軽にご相談ください

問合先／岩手農政事務所農政推進課　☎019-624-1125、農林課☎85-3415、農業委員会　☎85-3413、JA西和賀　☎85-3301

陸上自衛隊第22回定期演奏会

陸上自衛隊岩手駐屯地音楽隊では次のとおり第22回定期演奏会を行います。入場は無料ですが、入場整理券が必要です。

日時／3月17日（土）開演15:30

場所／盛岡市民文化ホール（マリオス）

整理券配布先／盛岡市民文化ホール、自衛隊岩手地方協力本部など

問合先／陸上自衛隊岩手駐屯地指令業務室（滝沢）　☎019-688-4311

その他

岩手中部の春休み親子工場見学

岩手中部地区広域市町村圏事務組合では、岩手中部に立地する企業の製品を知るとともに、圏域の交流を図るため「岩手中部･春休み親子工場見学事業」を次のとおり行います。

日時／3月22日(木)9:00

自然保護指導員・管理員・パトロール隊の募集について

町では、町内の自然を保護するため、次のとおり管理員などを募集します。応募者が多数の場合には、選考基準により選考します。

申込期限／平成19年3月9日（金）まで

連絡先／生活環境課（湯田庁舎）☎ 82－3283

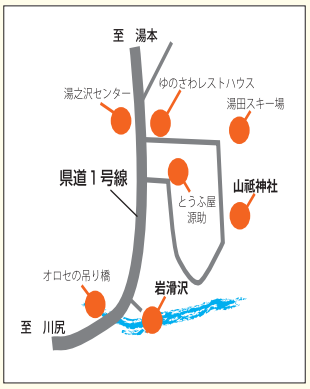
募集種目	県立自然公園管理員	栗駒国定公園管理員	自然保護指導員	自然保護パトロール隊
募集人数	１名	２名	１名	若干名
業務内容	錦秋湖周辺の監視・草刈り・清掃	南本内岳の登山道管理や動植物等の保護指導	和賀岳周辺自然環境保全地域の監視や動植物等の保護指導	町内を巡回して動植物の盗掘などの監視・保護
活動期間	月　15日～20日	月　８日～10日	月　15日～20日	４月～11月
賃　金	年間約７０万円	年間約３５万円	年間約６１万円	ボランティア
応募資格	町内に在住する25歳以上75歳未満の健康な人で、普通免許所有者	町内に在住する25歳以上75歳未満の健康な人で、普通免許所有者	町内に在住する30歳以上75歳未満の健康な人で、普通免許所有者	町内に在住する25歳以上75歳未満の健康な人で、普通免許所有者
	※ただし、７５歳以上でも、町長が適当と認める者にあってはこの限りではありません。			

■広報にしわが　平成19年2月23日発行　岩手県和賀郡西和賀町・☎0197(82)2111　発行人　高橋繁／編集人　高橋定信／毎月25日発行／印刷　(有)平鹿印刷・横手

文化財を訪ねて

（町内の文化財を紹介するコーナーです）

■長松垢離取り（こりと）…②



▲参加者によるもちつき。この後に神社と沢を目指します。

長松垢離取り（通称：裸まつり、西和賀町指定無形民俗文化財）は湯之沢地区の山祇神社にまつられている「山の神」の年越しにあたる旧暦の12月12日に毎年行われています。

始まりは、およそ300年ほど前とされ、以前は雪の上を転がって身を清めたとされています。鉱山の廃止とともに、長松地区が集落移転したことで現在のように岩滑沢に入るようになりました。

この行事は山の安全や無病息災、そして豊作を祈願し行われています。

マイホームアイドル

彩香（さやか）ちゃん（4歳）
凛（りん）ちゃん（1歳）

前郷
内記　淳さん
ゆかりさん

お母さんから
「やさしくて思いやりのある子どもに育ってね」

颯太（そうた）くん　（3歳）
依咲（いさき）ちゃん（1歳）

太田
高橋　裕之さん
歩（あゆみ）さん

お母さんから
「素直で明るく元気に育ってほしいな」

てにをは

最近、広報の発行の間隔が短くなっているような気がします。毎月締め切りにおわれる日々です。いつまで続くのでしょうか。来月は異動の内示があります。（小林）

R100 古紙配合率100％再生紙を使用しています　SOY INK 地球環境にやさしい大豆インキを使用しています